



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 組織情宣部
2024年5月19日 No.767

経営側は 社員の奮闘に応えるべきだ！！

業務の融合と連携や社員数の減少により
業務量の増加や知識習得に努力してきた！

コスト削減を推し進める経営環境と社員数の減少による負担増加！

- ワンマン運転の拡大など運行体制のスリム化
- チケットレス・モバイルシフトなどによる駅業務の変革（効率的な販売体制の構築）
- みどりの窓口の配置見直しなどコスト削減を実施
- 2021年度 49,780人、2022年度 48,040人、2023年度 46,050人と年々、社員が減少

業務エリアの拡大や複数業務など施策を担ってきた！

- 統括センター化による勤務エリアの拡大
- 日々異なる勤務箇所への出勤や自宅から遠隔地への勤務
- 単身赴任による二重生活で家族含めて生活の変更を余儀なくされている
- 乗務員による駅の改札や案内業務。さらに駅業務・車掌業務における営業知識の再習得が求められている
- 社員一人が複数の業務と役割を果たし「安全・安定輸送とサービスの提供」に尽力
- 車両区所の組織再編に伴い社員の出張回数が多くなったほか、検査、修繕計画、車両運用対応など非効率な中でも社員が奮闘し補っている
- 組織再編で社員一人が複数の業務をこなす形で結果、業務が増え、残業が増えている
- 出向により家族と転居しながらも、会社施策を担っている
- 様々な事象が発生するたびに、緊急点検などで普段の業務のほかに負担が増えている
- 出向に出ながら「安全・安定輸送」、安心できる鉄道のメンテナンスに奮闘している

期末決算では上方修正を上回る業績を生み出した！

納得ができる成果配分を勝ちとるために
東日本ユニオンと共に声をあげていこう！